和'S YAMATO
（わずやまと）

冬号
2012

NHK大河ドラマより
『平清盛』屋島の戦い・壇ノ浦の戦い
『八重の桜』新島八重のふるさと・会津

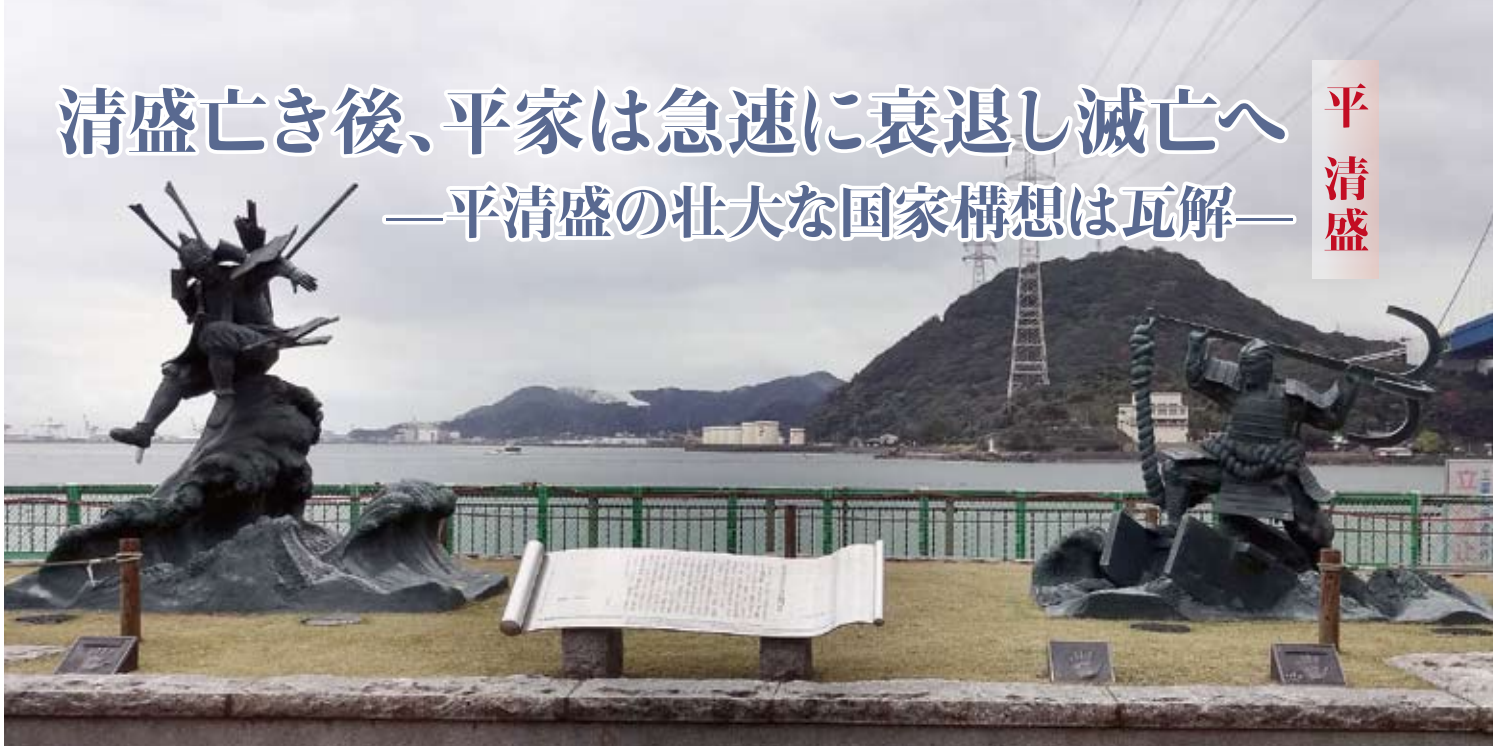
◎お客様紹介
長岡三古老人福祉会 様（新潟県長岡市）
◎名水探訪 立山玉殿の湧水

「樹影」 西野正望 画

表紙の絵　ミニ解説

自然界など様々な記憶の沁み、光の沁みをテーマにした作品。
西野氏の日本画は、琳派をリスペクトした技法を用い、
現代デザインを融合させての独創性を表現している。
2013.1.21～31（予定）に東京・新橋の「Gallery閑々居」で個展を開催。
（詳細はホームページをご覧ください　kankankyo.com）

清盛亡き後、平家は急速に衰退し滅亡へ
―平清盛の壮大な国家構想は瓦解―



源義経(左)と平知盛(右)像

関門海峡の下関側の岸にある、みもすそ川公園内に設置されている源義経(左)と平知盛(右)像。

NHK大河ドラマ「平清盛」が、ドラマの終盤を迎えている。治承四年(1180)、源頼朝が伊豆で挙兵し、東国では反平氏の武家勢力が拡大を見せ始める。また、同年の平家による南都焼き討ちで、寺社や民衆からも平氏への反感が強まっていた。そして、国政の実権を握ってきた平家は、治承五年(1181)の清盛没後、わずか四年の短期間のうちに滅亡することとなる――。

宋銭による貨幣経済を主導した平清盛

清盛が政治権力を強めることができた要因の一つには、日宋貿易の独占が上げられる。日宋貿易で獲得した宋銭を使い平家の財政力を強化し、さらに都に貨幣経済を浸透させ、自らの経済基盤の拡大を企図したのである。

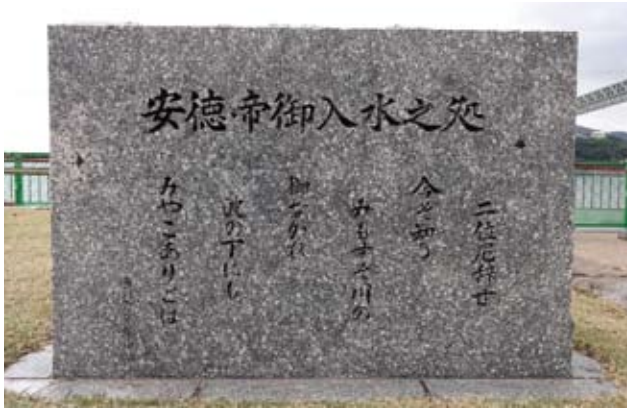
清盛は伊勢平氏の出身で、伊勢では銀や水銀が産出されたため、それらを輸出し、宋銭を輸入していた。この取引は、保元の乱(一一五六年)の後、正五位下・少納言である信西(藤原通憲)が独占していたが、平治の乱(一一五九)で信西が殺害されてからは、清盛がその権益を受け継いでいた。

日本での貨幣流通は、天武天皇が七〇八年発行した「和同開珎(わどうかいちん)」が始まりとされている。しかし、当時の日本は貨幣経済が発達するほどの経済力を伴わなかったため、貨幣の流通は都周辺のごく一部に限定されていた。

平安時代末期になると、農業をはじめ各種産業が発達段階を迎え、絹や米を媒介にした物々交換では、物資の流通に限界が生じていた。そこで清盛は、宋という強大な国家の信任を背景にした宋銭を輸入・流通させ、日本国内で貨幣経済を完全に機能させようと試みる。当時、こうした海洋・貿易国家構想は、まさに経済政策の歴史的大転換と言えるものであった。

清盛の卓越した政治手腕は、朝廷政治を担う公卿からは、当然ながらやっかみや反発を招くこととなるが、平家一門の権力がしだいに増大していくと、公卿たちも平家に従わざるを得なくなった。そんな中で、上級貴族たちは当然貨幣経済の恩恵を受けたため、家格の違いに目をつぶれば、平家の台頭を不承不承ながらも受け入れることができたであろう。

しかし、平家の徴税政策に対する地方豪族の不満は、朝廷内からの反発の比ではなかった。

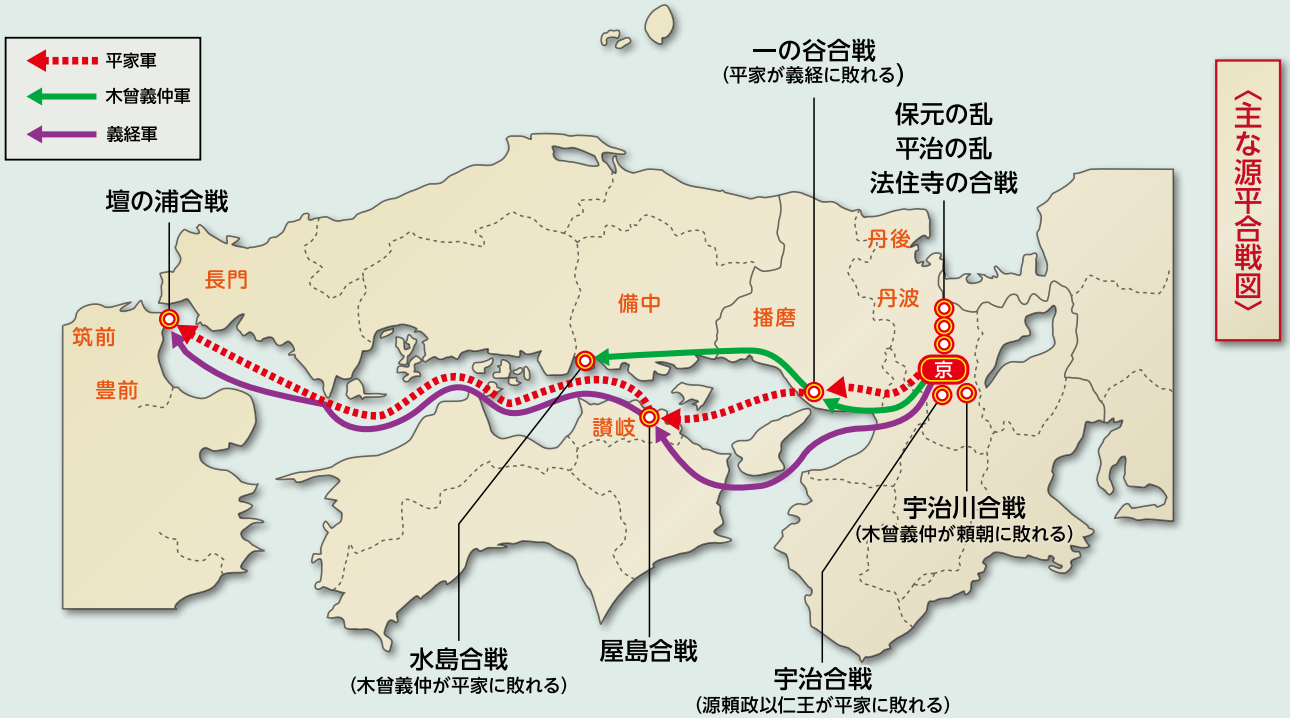


布刈公園には『今ぞ知る 身もすそ川の御流れ 波の下にもみやこありとは』という安徳帝と入水した二位尼(平時子)の辞世の句の歌碑がある。

地方豪族の権力基盤を脅かした平家

清盛は治承三年(一一七九)に後白河法皇の院政停止を宣言し、武士が完全な武力により貴族から政権を奪う政変を起こした。この政変以降、国司(現在の県知事にあたる役職)の半数以上が平家家人とそれに連なる人物で占められることとなった。土地に根ざしていた従来の

屋島（香川県高松市） 屋島古戦場を屋島山頂から望む。義経の急襲により、平家軍は敗走を余儀なくされる。



国司は、その地位を平家家人に追われることとなったため、平家に対する反感が高まった。源頼朝が挙兵した東国でも、こうした平家対在地豪族の軋轢が例外ではなかった。

また、東国においては、荘園の管理をめぐっても平家への不満が増してきていた。平家一族やその郎党の国司は武力を背景に、豪族が課税を逃れるため貴族名義にしている荘園にも、容赦なく税をかけ圧迫した。それまで貴族出身の国司たちは、名義だけの荘園であっても、藤原摂関家に配慮して摘発することはせずにいた。また、国司たちは武力を持たず実力行使が出来なかったため、地方豪族の既得権益を侵害することは無かった。こうした構図から、自らがその土地の殿様として君臨している地方豪族にとって、平家関連の国司に重税をかけられるのは大きな不満であった。

かくして、平家の圧倒的な武力により政権を奪取した清盛への反発は、絶えずくすぶり続けることとなった。また、武力による政権樹立という点においても、その正当性に疑問が持たれ始め、平家打倒の一大勢力としての源氏がにわかに台頭する。

荒田八幡神社

福原遷都の際、安徳天皇の最初の行在所（仮の住まい）となったのが平頼盛の山荘で、その山荘の所在地が、現在の荒田八幡神社一帯である。境内には、安徳天皇行在所址（平頼盛山荘址）と福原遷都八百年記念の碑が立てられている。

平野祇園神社

仁安二年（1167）、太政大臣を辞し、病に侵され出家した後の清盛が、10年以上にわたり居住したのが、平野祇園神社の周辺であった。清盛が経が島を築造する際、祇園神社の裏山にあったとされる寺。清盛は海潮の音を聞きながら、経が島の計画を練ったと伝えられている。

源氏の蜂起と平家による福原遷都

治承四年（一一八〇）五月、厳島神社の参拝から戻ったばかりの清盛のもとに、後白河法皇の第三皇子・以仁王が源頼政とともに、諸国の源氏に向けて平家打倒の令旨を発したとの知らせが届いた。清盛の命を受けた平家軍は、逃走中の以仁王と頼政を宇治川（京都防衛上の要衝）で撃破した。この反乱には、平家と対立している興福寺などの寺院も協力していたが、これらの寺院は、平家の武力により強引に即位した安徳天皇に反感を抱いていた。

以仁王の乱は、皇位継承をめぐる対立、寺社勢力の抑圧への反発、地方豪族の権益侵害など、多岐にわたる問題が顕在化する契機となった。こうして、武力によって平家を制しようとする動きが、しだいに加速していく。

平清盛は治承四年（一一八〇）六月に福原遷都を強行するが、わずか半年で都を再び平安京に還した。その大きな理由は、源頼朝の挙兵など反乱軍の蜂起であり、富士川の合戦での平家軍の大敗北にあった。清盛は政治の中心地・平安京で、平家軍の立て直しと反乱軍の掃討策を練り始める。

清盛の最期とその後の平家

清盛は治承四年（一一八〇）十二月、平重衡（しげひら）を総大将とする軍勢をもって、以仁王の乱に呼応した興福寺や東大寺を襲撃した。平家軍が放った火により当時の主要なお堂はことごとく焼失し、清盛の反対勢力粉砕にかける決意の強さを見せつけた。しかし、鎮護国家の象徴である東大寺や、藤原氏の氏寺である興福寺に火を放ったことで、貴族たちの清盛離れはさらに加速していくこととなる。

そして、治承五年（一一八一）二月、戦闘態勢を整え反乱軍との戦いに備えていた清盛が、突然発病する。熱病におかされ一週間生死の境をさまよった清盛は、平盛国邸で六十四年の生涯を閉じた。「平家物語」には清盛が死の直前、「葬儀は無用、頼朝の首を墓前に供えよ」と遺言し他界したと記されている。平清盛が亡くなった夜、御所では後白河法皇が今様を乱舞する姿があったという。法皇にとって清盛の死は、長年の重圧から解放される、待ち望んだ出来事であったと推察される。

清盛の後継者となった平宗盛（清盛の三男）は、後白河法皇に政権を返上したため、院政が復活することとなる。こうして政権を手放した平家の退潮はとどまらず、寿永二年（一一八三）には倶利伽羅峠（くりからとうげ）の戦いで木曾義仲の大軍に攻撃され、ついに都落ちを余儀なくされる。さらにその際、宗盛は共に都落ちするはずの後白河法皇の逃亡を食い止めることができなかった。当時政権は院政を行っている後白河法皇が握っていたため、清盛の娘が生んだ安徳天皇は後ろ盾を失い、平家の血縁である天皇の権威は著しい失墜を招いた。この事態は朝廷や貴族間に、平家の凋落を強く印象づける結果となった。

平家は都落ちした後、西国にまで追いつめられ、寿永四年（一一八五）三月、壇ノ浦の戦いでついに滅亡する。絶大な権力をほしいままにした清盛の死から、わずか四年のあっけない幕切れであった。

清盛塚の平清盛像

神戸出身の彫刻家・柳原義達作による清盛像。清盛は地域の人々に敬われ、大切に守られている。

尾道市
兵庫県

千光寺（尾道市）からの展望

尾道と平清盛

明治時代、尾道は石見銀山から産出された貨幣の原料となる銀を欧州へ輸出する港町で、銀の物流拠点だった。加えて、尾道から運ばれる銀によって、世界の銀相場が大きな影響を受けたこともあるという。このように、尾道は物流と金融業の先進地としての役割を持っていた。これは、平清盛が目指した海洋貿易国家や、貨幣経済の拡充と一致している。平安時代に、近代において日本が経済的な発展を遂げる歴史的基盤を作ったのが清盛ということができるだろう。尾道が日本の開国後、いち早く清盛の描く物流・金融の都市として発展していったことを考えると、尾道は清盛の思想を具現化した港町といえるかもしれない。

西國寺本堂

西國寺

真言宗醍醐派の大本山

1108年、白河法皇により勅願寺（国家の災いを沈め、皇室繁栄を祈る寺）とされる。国重要文化財の金堂・三重搭や、長さ2メートルの草履の仁王門などが有名。金堂まで続く108段の階段があり、上りきると情緒豊かな町並みが眼下に広がる。

西國寺仁王門にかけられた大わらじ。健脚祈願の寺として有名

千光寺公園の文学の小道

千光寺

尾道港を一望する大宝山の中腹にあり、大同元年（806年）に弘法大師が開基し、中興は多田満仲公と伝えられている。古くから風光明媚な港町として栄えた尾道には、多くの文人墨客が訪れている。千光寺公園には徳富蘇峰、正岡子規など25人の歌碑があり、志賀直哉、中村憲吉の旧居が保存されている。

浄土寺

616年に聖徳太子が開基したとされる、中国地方屈指の古刹。1186年に後白河院の勅願寺となった。国宝の多宝塔をはじめ文化財の宝庫で、平安時代の文化財としては、阿弥陀如来坐像（県重要文化財）や大日如来坐像（2体）がある。商都尾道の奥深さをうかがわせる名勝の庭園や、茶室・露滴庵も見所となっている。願い事を念じながら回す事ができれば、運が開けるという「願かけ石」がある。

仙酔島（鞆の浦）

せんすいとう　とものうら

仙人が酔ってしまうほど美しい島という意味の島名がつけられた。1934年、日本で最初の国立公園の一つに指定される。清盛は初めに厳島明神を祭ろうとしたが、島が狭いため安芸の宮島に変更したという伝説がある。奇しくも仙酔島にある山は、宮島と同じく「弥山」と呼ばれている。仙酔島には宮島同様、美しい景観と自然が残されている。

歴史に名高い源平・屋島の戦い

平清盛

洲崎寺【写真2】

佐藤継信の亡骸はこの寺の門扉で本陣・瓜生ヶ丘まで運ばれたといわれ、継信の菩提寺となっている。

血の池（屋島山頂）

源平合戦のとき壇の浦で戦った武士が血のついた刀を洗い、池の水が真っ赤に染まったということから別名、血の池と呼ばれている。

高松市
香川県

むれ源平石あかりロード

香川県高松市牟礼町は、世界一高価な花崗岩“庵治石”の産地として有名。
“石の町・牟礼町”には、源平屋島合戦（1185年）の史跡が数多く残され、その案内板は石でできている。

寿永二年（一一八三）七月、京都に攻め入った木曽義仲ひきいる大軍との戦いに敗れた平家は、都落ちを余儀なくされ九州に辿り着く。しかし、そこでも源氏の手勢に追い込まれたため、新たな拠点としたのが屋島であった。いつの日か劣勢を挽回し、再び京都に凱旋できることを目指し、海上からの源氏の攻撃に対する防御として、平家は剛健な総門を造った【写真1】。

寿永四年（一一八五）二月、平家一門が屋島に落ち延びてからちょうど一年後、実兄である源頼朝から平家追討の命令を受けた義経は、強風の中わずか一五〇騎、船五艘に分乗して四国の阿波（現在の徳島県）に上陸、一路、屋島へと向かった。義経は大阪峠を越え、引田から長尾、前田を経て新田へと本隊を進軍させる。一方、別動隊は海岸線を進み、夜明けを待って、付近の民家や屋島檀ノ浦の内裏に火をつけるなどの奇襲攻撃に出た。またたくまに広がる火の海と敵軍の来襲に平家は驚きあわて、屋島檀ノ浦に追い落とされ、ついに総門をも占領されてしまう。

しかし、防戦していた平家軍も果敢に反撃し、平家きっての強弓使いである能登守教経は、燃え盛る総門近くに立つ義経めがけ弓を引いた。その時、放たれた矢の前に立ちはだかったのが、義経の家臣・佐藤継信であった。強弓に射抜かれた継信は「主君の身代わりになれたことは今生の面目、冥土への思い出」といいながら、雄々しく息を引き取ったという。そのため、当地は射落畠と言われるようになった。継信の遺体は洲崎寺【写真2】の扉にのせて運ばれ、手厚く葬られたと伝えられている。継信の死を悲しんだ義経は近隣の高僧を招き、自分の太夫黒という愛馬を託

源平合戦総門碑【写真1】

安徳天皇が六万寺を行在所としていた頃、海辺の防御に備えて門を構え平家の前哨としていた場所。

祈り岩【写真3】

那須与一宗高が扇の的を射る際、この岩に向かって一心に祈ったといわれている。絵は、屋島山頂に設置されている「源平屋島合戦」の看板の装飾。

景清鍔引（しころびき）伝説【写真4】

この付近で平家軍団一の豪傑とされる悪七兵衛景清と源氏の美尾屋十郎が一騎打ちしたとされている。

義経弓流しの跡【写真5】

義経の気丈さを物語るエピソードとして、平家物語や源平盛衰記で描かれています。

し、ねんごろな弔いを頼んだ。

源氏優勢が明らかになるにつれ、阿波・讃岐の武将たちも源氏に馳せ参じ、平家はしだいに四面楚歌へと追い込まれていく。

そうした戦いのある日、平家方より源氏軍の方に一艘の船が近づいてきた。女官を乗せたその船の舳先には、なにやら赤いものが掲げられている。小さく赤く見えたのは扇であり、波に漂う船に掲げてあるその扇の的を射てみよと言うことらしかった。そこで、義経は弓の名手として名高い那須与一に、扇に的に向かって矢を放つよう命じた。那須与一は「もし、射損じれば弓を折って死ぬまで」と決意し、「南無八幡大菩薩願わくは…」と一心に祈りながら【写真3】、荒れる海に船を乗り入れた。そして、海中にあった大石に己の馬を立たせ、無心に扇を狙い弓を放つ。一本の矢は浦に長鳴りを響かせながら飛んで行き、やがて扇は見事空中高く舞い上がった。

時を同じくして、浜では源氏の美尾（みおの）屋十郎（やのじゅうろう）と平家の悪七兵衛景清（あくしちびょうえかげきよ）の一騎打ちが繰り広げられていた。互いに幾度となく刀を交えた後、船上からの攻撃に耐えかねた十郎が逃げようとしたところで、優位に立った景清は熊手で十郎の鍔（しころ）（兜の鉢の左右・後方につけて垂らし、首から襟の防御とするもの）を掴む。両者激しい引き合いの末、突然鍔の糸が切れ、辛くも十郎は逃げのびたと言う。景清の腕力の強さと十郎の首の強さを、互いが大いに褒め称えあったとの逸話がある。【写真4】

一方、源義経も自らの馬の腹が浸る程海中に進み、無我夢中で戦っていた。やがて敵方まで近づいた義経は、海面に自分の弓を落としてしまう。流れる弓をかき集めようとしていた義経を、平家の武将が熊手で海中に落そうと向かってきた。義経はあやうく難を逃れたが、やっきになって弓を集めようとしたのは、源氏の大将が貧弱な弓を使っていると知られては恥になるからとの逸話もある。【写真5】

終始源氏優勢の戦いの中、平家の応援に駆けつけた阿波の田内教能も、義経の家臣・伊勢義盛の説得により寝返り、源氏方に付いた。

援軍さえも源氏方に取られ、いよいよ追い詰められた平家は、三種の神器（天孫降臨の時に、天照大神から授けられたという鏡・剣・玉）を奉った安徳天皇とともに、西へ西へと逃れて行った。

そして、わずか八才の幼い安徳天皇が長門の海に身を投げたのは、屋島の戦いからわずか一ヶ月後の、寿永四年三月二十四日のことであった。

かくして、驕れる平家の栄華は、壇ノ浦の海で、うたかたの夢と散っていった……。

海の藻屑と消えた平家・壇ノ浦の戦い

平清盛

源平壇ノ浦合戦の壁画

関門海峡で繰り広げられた「壇之浦合戦」の模様を、義経の八艘飛びなどダイナミックな動きや武者同士の戦いを有田焼のレリーフで再現している。関門海峡を見下ろすことができる布刈公園内の第2展望台にある。

甲宗八幡神社（こうそうはちまんじんじゃ）

源平の戦いで荒れた社殿を、戦後に源範頼・義経兄弟が荒れ果てた社殿を再建した。

甲宗八幡神社の拝殿の裏には、平知盛の墓と伝えられる石塔がある。

和布刈神社（めかり）

社伝によると、仲哀天皇九年（西暦200年）の創建。合戦前夜には、神職による祝詞と神酒で平家の戦勝を祈願したという。境内は関門海峡に面しており、海に向かって鳥居と階段がつけられている。

五年にわたる源平の戦いは、寿永四年（一一八五）三月二十四日の壇ノ浦の戦いで、ついに終焉を迎える。

歴史書「吾妻鏡」によれば、義経の船団は八百四十余、平家の船は五百であったとされている。平知盛（清盛の四男）は得意の海上戦で、幾度にわたる合戦の平家劣勢を挽回しようと、東流れの海流に乗り戦いを有利にしていた。しかし、昼近くになると潮流が西に変わりはじめ接近戦となる。さらに義経が平家軍の舵取りを射るという奇策を図り、平家軍は混乱をきたし初め、戦況はしだいに源氏優勢となる。こうした戦況下において、平家方を裏切り、源氏に味方する者が相次いでいった。平教経（のりつね）（平教盛の次男）が義経を追い詰めたものの、義経は後世に伝わる「八艘飛び」で味方の船に逃れたため、討つことはできなかった。

平家の二位の尼は敗戦を覚悟し、三種の神器を身につけ、幼い安徳天皇を抱き「海の底にも都はあります」とさとしながら入水した。安徳帝の母・建礼門院（清盛の娘）もそのあとを追ったが、救出され囚われの身となった。

源平の壮絶な戦いに勝敗がついたのは午後四時頃、知盛はじめ平家の主だった武将は安徳天皇の最期を見届けると、次々に入水していった。平家の棟梁・宗盛（清盛の三男）は捕らえられ、鎌倉に護送されたあと京都に送り帰される途中で斬首される。

歴史に名高い壇ノ浦の戦いの後、関門海峡には、おびただしい平家の赤い旗印が空しく漂っていたという。

年表　清盛の死後、平氏一門は瀬戸内海を西へ向かう敗走が続く

養和元年（1181-閏年）	2月4日	清盛、京にて病没
寿永2年（1183）	5月	越中・加賀国境の倶利伽羅峠の戦いで木曾義仲に大敗
	7月25日	安徳天皇を奉じ都落ち 一行は福原で一泊し、大宰府を目指す
	8月17日	大宰府に入る。 のち、宇佐神宮を参拝し、大宰府に還御
	9月13日	平氏一門大宰府で月見 以降九州の反平氏勢力が蜂起し、豊前・柳浦へ逃げる ここから船に乗り、瀬戸内海を漂流し、屋島へ 以降行在所と定める
元暦元年（1184）	2月	源義経・範頼軍に一ノ谷の合戦で敗れ屋島へ敗走
文治元年（1185）	2月	屋島・志度にて、義経の急襲を受ける
	3月24日	壇ノ浦にて義経の追撃により、平氏一門滅亡
建久3年（1192）	7月	源頼朝、征夷大将軍に

赤間神宮の水天門

昭和33年、世界で唯一の竜宮造りで造営され、同年に天皇皇后両陛下がご参拝された。御祭神の安徳天皇は水天皇大神と称えられ、竜宮造りの社殿を海中の御殿に見立てているそうである。

安徳天皇の御陵

赤間神宮の隣にある安徳天皇の御陵。門は常時閉ざされており、天皇陛下がお見えになる際は開けられるという。

安徳天皇の供養塔

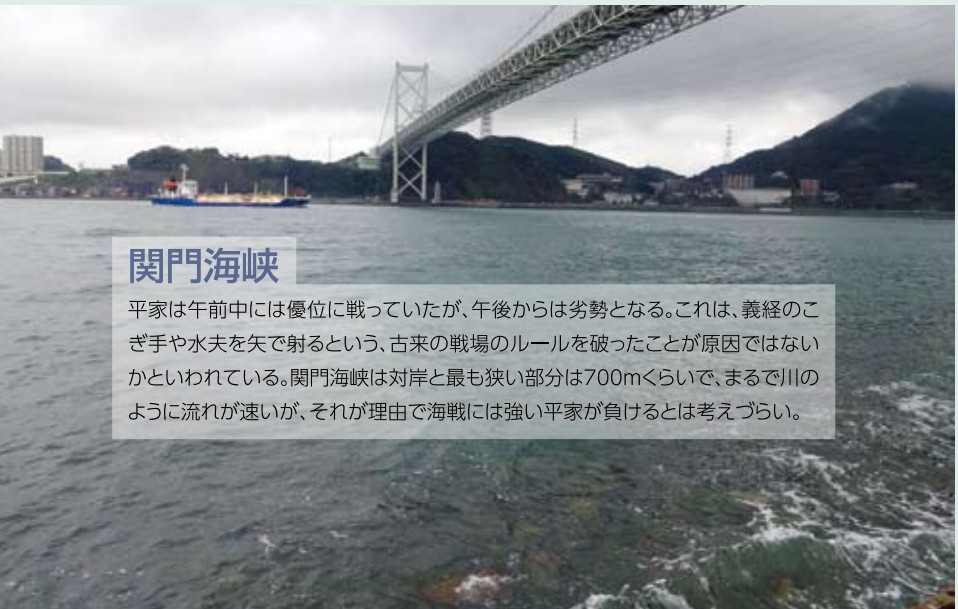
太平洋戦争での水没者の供養塔でもある。〔赤間神宮内〕

平家一門の合祀墓

〔赤間神宮内〕14名の知盛、教盛など「盛」の字がつく武将が数多く祀られているところから、七盛塚と呼ばれている。

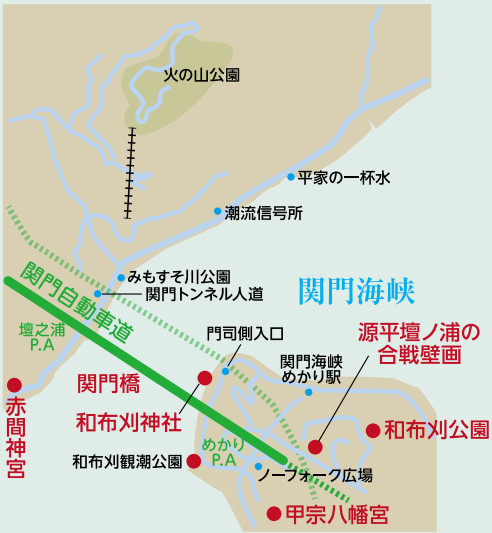
耳なし芳一の像

芳一は琵琶法師で、赤間神宮の前身である阿弥陀寺にいた。芳一はこの地で平家武者の亡霊に「平家物語」を弾き語ったと伝えられている。
〔赤間神宮内〕



関門海峡

平家は午前中には優位に戦っていたが、午後からは劣勢となる。これは、義経のこぎ手や水夫を矢で射るという、古来の戦場のルールを破ったことが原因ではないかといわれている。関門海峡は対岸と最も狭い部分は700mくらいで、まるで川のように流れが速いが、それが理由で海戦には強い平家が負けるとは考えづらい。



NHK大河ドラマ『八重の桜』

八重のふるさと会津

平成25年のNHK大河ドラマは「八重の桜」。群馬県と縁が深く、同志社大学を創設した新島襄の妻・新島八重が主人公である。八重の生まれ故郷・会津を訪ね、ゆかりの地に足を延ばしてみた。

鶴ヶ城（会津若松城・福島県会津若松市）

会津鶴ヶ城は至徳元年（1384）に葦名直盛が初めて城の原型を作ったといわれており、その後、葦名盛氏が改築し、当時は黒川城と呼ばれていた。文禄2年（1589）には蒲生氏郷が本格的な天守閣を築城し、『鶴ヶ城』と命名した。慶長16年（1611）に会津地方に発生した大地震で、石垣や天守閣が大きく傾いたため大改修を実施、ほぼ現在の姿のとなった。戊辰戦争では激しい攻撃を受けたが原型をとどめたものの、明治政府により明治7年に取り壊される。昭和40年（1965）に往時の姿に復元された。

新島八重が生まれたのは弘化二年（一八四五）十二月、父は会津藩の砲術師範を務める山本権八、母は佐久。元々は六人兄弟の5番目の子で三女であったが、男一人、女一人は早くに亡くなっている。八重の生家は鶴ヶ城（会津若松城）の西、米代四之丁にあり、会津藩校日新館にも近かった。当時この地域には、身分は高いが禄高は少ない武士たちが住んでいたという。八重は武士の娘としての誇りを持ちながらも、経済的にはあまり恵まれない中で育ったと考えられる。

会津藩は、初代藩主の保科正之以来、八重が生まれた幕末の九代松平容保の時代まで、二二五年にわたり徳川幕府に忠誠を誓ってきた。初代正之の祖父が徳川家康であり、徳川家との結びつきが強かったため、幕末の戊辰戦争では、徳川一門として新政府軍と戦うことになる。

八重に大きな影響を与えた人物は、十七歳年上の兄・山本覚馬であった。覚馬は文武に優れており、藩命で江戸に遊学した際、砲術者の佐久間象山に学び、洋式銃の威力を知ることとなる。当時の会津藩では、槍や刀こそ武士の魂であり、銃は足軽の武器という考え方が一般的だった。銃のような飛び道具は、戦においては卑怯な武器とされていたのである。しかし、覚馬は従来の戦法や精神論では、銃砲を主体にした近代戦には勝てないことを藩の幹部に意見し、大砲を扱う役目が与えられた。男勝りの八重は覚馬のこうした合理的精神に感化され、数ある砲術師範の家で女性として唯一、鉄砲の扱い方を習うこととなった。

文久二年（一八六二）、会津藩主松平容保は幕府から、京都の治安維持のための組織・京都守護職を受諾した。この頃、京都では長州をはじめ倒幕派が日々勢いを増していた。政局が混沌とする時期に京都の治安維持を受け持つことは、会津藩にとって人員確保や財政面でも負担が重く、ましてや倒幕派からは敵とみなされる。当初、藩主・容保は固辞したのだが、幕府存亡の危機に際し、最終的には受諾せざるを得なかった。

元治元年（一八六四）、長州軍が京都御所を守る会津藩を攻めた蛤御門の戦いが起こる。その際、山本覚馬は砲兵隊を率い、敵軍の拠点を攻撃して成果を上げた。これにより、洋式兵器の利点が見直され、会津藩は銃砲を主体とする軍制改革に着手していった。

八重の最初の結婚は、慶応元年（一八六五）頃と推察されている。相手は但馬（現在の兵庫県）出身で、会津藩に砲術士として採用された川崎尚之助であった。八重二十歳、尚之助二十九歳頃とこととされるが、正確な資料は現存していない。

慶応四年（一八六八）一月三日、ついに戊辰戦争が勃発、同年八月には戦線が会津に近づいてきた。八重は男の着物を身に着け袴をはき、大小の刀を差し、新式のスペンサー銃を携えて入城した。そして、籠城三日目の八月二十六日、夫の尚之助とともに敵陣に向かって砲弾を放ち、敵方を四散させるほどの大活躍をしたという。

しかし、同年九月十七日には八重の父・権八が戦死、九月二十二日、一か月

磐梯山

鶴ヶ城天守閣から眺める磐梯山

表門（鉄門）（くろがねもん）

本丸の西にある表門。籠城戦の最中、松平容保はここで指揮をとっており、八重は不発弾を分解してその構造を容保に説明したという。

古地図

会津の蔵元・宮泉銘醸の敷地内にある鶴ヶ城や八重の生誕地を示した古地図の看板。

に及ぶ籠城戦の末、会津藩はついに降服した。この時、八重は戦いに敗れた無念さを、次のように詠んだ。

明日の夜は
いずこの誰か眺むらん
なれしお城に残す月影

戦後、八重は尚之助と離婚し、一時米沢に移ったが、明治四年（一八七一）に、兄・覚馬の招きで京都に移り住む。

ここから、新しい時代を生きる八重の、清冽な人生が展開していくことになる。

HISTORY

新島八重　略年表

1845 (弘化2)年	12月 1日	会津藩(現在の福島県会津若松市)で父・山本権八、母・佐久の間に生まれる 兄は山本覚馬
1865 (慶應元)年		この頃、川崎尚之助と結婚 のち戊辰戦争の時に離別
1868 (慶應4)年	1月	鳥羽伏見の戦い 戊辰戦争勃発 弟三郎が闘いの傷がもとで死亡
1868 (慶應4)年	8月23日	会津、鶴ヶ城にて籠城戦が始まり、八重は戦死した三郎の服を着て、銃を手に入城する
1868 (慶應4)年	9月22日	会津藩が降伏し、開城
1871 (明治4)年		母・姪とともに京都へ
1872 (明治5)年	6月	公立女学校のさきがけである女紅場（にょこうば） （現：京都府立鴨沂高等学校）で教師となる （～75年11月）
1875 (明治8)年	10月15日	新島襄と婚約
1875 (明治8)年	11月29日	同志社英学校開校
1876 (明治9)年	1月 2日	J・D・デイヴィスから洗礼を受ける
1876 (明治9)年	1月 3日	初めての日本人クリスチャンとして結婚式をあげる
1877 (明治10)年		同志社分校女紅場 （現：同志社女子大学）開校
1890 (明治23)年	1月23日	新島襄、永眠 八重に「グッドバイ、また会わん」と言い残す
1890 (明治23)年	4月26日	日本赤十字社正社員となる
1895 (明治28)年		日清戦争での戦時救護活動のため広島へ派遣される （日本で最初の看護婦による救護活動）
1896 (明治29)年	12月25日	日清戦争での功労と慰労に対し、勲七等宝冠章が授与される
1897 (明治30)年	6月 8日	日本赤十字社篤志看護婦人会京都市会幹事となる
1905 (明治38)年		日露戦争時、大坂にて篤志看護婦として従軍
1906 (明治39)年	4月 1日	日露戦争での功績により勲六等宝冠章が贈られる
1910 (明治43)年	1月23日	新島襄永眠20年を記念し、遺品の展示公開を行う
1924 (大正13)年	12月 8日	皇后陛下の同志社女学校行啓の際に単独謁見を許される
1931 (昭和6)年	8月 1日	新島家墓地の維持・管理を同志社に委任
1932 (昭和7)年	6月14日	急性胆のう炎のため自宅にて永眠。享年86歳
1932 (昭和7)年	6月17日	同志社英光館にて同志社社葬

お客様紹介

社会福祉法人 長岡三古老人福祉会 様

（新潟県長岡市）

近藤理事・法人総務局長

「住み慣れた地域で安心して暮らせますように、私達がお手伝いします」。このスローガンのもと、社会福祉法人 長岡三古老人福祉会様は地域の福祉・介護予防・住環境の支援活動を行っています。

長岡三古老人福祉会様は現在21種類のサービスを85の事業所で行っており、地域密着の施設作りに取り組んでいます。また、ユニークな事業として、新潟県長岡市の廃校を高齢者・障がい者用の雇用施設とするため、地産地消のレストランを運営しています。

蓄熱システム導入にあたって

理事・法人総務局長　近藤和義様に、ヤマト大温度差蓄熱空調システムの導入にあたってのお話をお伺いしました。

介護老人保健施設の経営環境が厳しい中、複数の施設を安定的に運営していく上でも、電気代をはじめ日常の経費を削ることの必要性を感じていました。法人の規模が大きくなってくると、エネルギーコストが1％でも削減できれば、経営改善に寄与します。ヤマトさんの蓄熱システムは、電気料金の安い夜間電力を使って経費節減を図るという、大変シンプルな仕組みです。当法人のメインバンクである北越銀行様からの紹介があり、また導入済みで実績をあげている施設を見学させていただき、経費節減に役立つことは間違いないと確信するに至りました。

さらに、節減額をヤマトさんが保証してくれるという安心感があり、加えて、ご担当の清水さん、石倉さんのお人柄にも後押しされて、ヤマトさんを信頼できたからこその決断でした。

長岡市と周辺エリアを中心としたネットワーク

⑨ **長岡市デイサービスセンターわしま**
・長岡市小島谷3422-3
・TEL.0258-74-3762

⑩ **高齢者総合福祉相談センター幸町**
・長岡市幸町1-13-15
・TEL.0258-31-1155

⑪ **ケアハウス福戸**
・長岡市大荒戸町972-3
・TEL.0258-25-8124

⑫ **高齢者総合福祉相談センター分水**
・燕市地蔵堂本町3-1-25
・TEL.0256-98-0700

⑬ **高齢者総合福祉相談センター福住**
・長岡市福住1-7-21
・TEL.0258-31-2611

⑭ **コンパクトシティ桜ガーデンプレイス福住**
・長岡市福住2-1-15
・TEL.0258-31-3281

⑮ **地域密着型複合施設　新組**
・長岡市新組町1890
・TEL.0258-22-6280

⑯ **長岡介護福祉専門学校あゆみ**
・長岡市福住1-7-21
・TEL.0258-31-2622

⑰ **高齢者総合福祉相談センター川崎**
・長岡市川崎町563-1
・TEL.0258-31-8551

⑱ **和島トゥー・ル・モンド 100年の時をこえて**
・長岡市和島中沢乙64-1
・TEL.0258-74-3002

① **特別養護老人ホームみしま園**
・長岡市宮沢580-3
・TEL.0258-42-3131

長岡市デイサービスセンターみしま
・長岡市宮沢354-1
・TEL.0258-42-3600

② **特別養護老人ホーム槇山けやき苑**
・長岡市槇山町1593-1
・TEL.0258-29-2500

長岡市高齢者センターまきやま
・長岡市槇山町1592-1
・TEL.0258-29-7002

③ **特別養護老人ホーム桐原の郷**
・長岡市寺泊下桐3700-1
・TEL.0256-97-5000

④ **特別養護老人ホーム縄文の杜関原**
・長岡市関原町1-1072-1
・TEL.0258-21-5055

⑤ **特別養護老人ホーム中之島**
・長岡市中之島字古新田2105-6
・TEL.0258-61-2828

⑥ **介護老人保健施設グリーンヒル与板**
・長岡市与板町槙原393-8
・TEL.0258-72-2500

⑦ **介護老人保健施設てらどまり**
・長岡市寺泊下桐850-1
・TEL.0256-97-3200

⑧ **ケアハウスけやきの杜**
・長岡市上野町1059-2
・TEL.0258-22-4400

＜法人概要＞

- 法人本部:〒940-0034　長岡市福住1丁目7番21号
- TEL.0258-31-2620　FAX.0258-31-2612
- ホームページ http://nagaokasanko.com/
- 事業範囲/長岡市(旧長岡市・旧越路町・旧三島町・旧与板町・旧和島村・旧寺泊町・旧山古志村・旧中之島町)、燕市(旧分水町)、出雲崎町

和島トゥー・ル・モンド/Bague

〒949-4516 新潟県長岡市和島中沢乙64-1
TEL.0258-74-3004　FAX.0258-74-3770
上越新幹線・信越線長岡駅より車で30分
長岡IC、中之島ICより車で30分
http://www.tout-le-monde.com

指定障害福祉サービス事業所　就労継続支援A型
事業内容　ユニバーサルレストラン、配食サービス、ギャラリー
地域アンテナショップ、環境関連事業

和島トゥー・ル・モンドとは？

新潟県長岡市の和島地域で親しまれ、育てられてきた旧島田小学校の築85年を経過した木造校舎をリノベーションし、地産地消の「ユニバーサルレストラン」として蘇りました。新潟の豊かな自然食材と天然水を活かし、あくまでフレンチをベースとしながら炭火グリルでシンプルに、季節や風土を感じられるメニューをそろえています。また、美術作品を展示するギャラリー、食用廃油リサイクルなどの環境関連事業にも取り組んでいます。

満席の場合がありますので、ご予約を頂けると幸いです。

ランチ　¥1,000～/11:30～14:00
カフェ　¥　600～/14:00～16:00（16:30 close）
ディナー¥1,000～/18:00～20:30（21:30 close）
　ディナーコース……¥3,500～（要予約）
毎週水曜、木曜日はレストラン定休日

認可保育園 こどもけやき苑 様

働く職員のための保育施設を

特別養護老人ホーム槇山けやき苑には、介護の現場で働くスタッフのための企業内保育園「こどもけやき苑」が設置されています。小さな子供がいて働けないでいる方々が、安心して働ける環境づくりを進めています。子供とお年寄りの交流も盛んに行われており、施設の利用者、働く職員、子供たちとそれぞれにプラス面をもたらすことができる取り組みです。

自然や生き物との触れ合いでいきいきとした毎日を送る

社会福祉法人 長岡三古老人福祉会 介護老人保健施設 グリーンヒル与板 様

〈国土交通省 建築物省エネ改修推進事業〉
省エネ効果26.1%見込

◎省エネルギー改修工事の概要

竣工:平成24年9月

構 造：RC造 S造
地上2階 地下1階
建築 面積 ：4,876㎡
延べ床面積：8,131㎡

空調設備更新

（1）熱源設備
システム 吸収式冷温水発生機
→蓄熱空調システムへの更新
仕様 高効率空冷ヒートポンプチラー
132kW×4台、蓄熱槽300㎥
（2）搬送設備
システム ポンプ動力見直しと
インバーターによる
可変流量制御導入
仕様 15kW×1台、7.5kW×1台
5.5kW1台、3,7kW2台

断熱性強化

（1）開口部の断熱強化
仕様 シングル→ペアガラス化
（687㎡）
（2）外壁の断熱強化
仕様 ウレタン吹付
（240㎡）

エネルギー管理

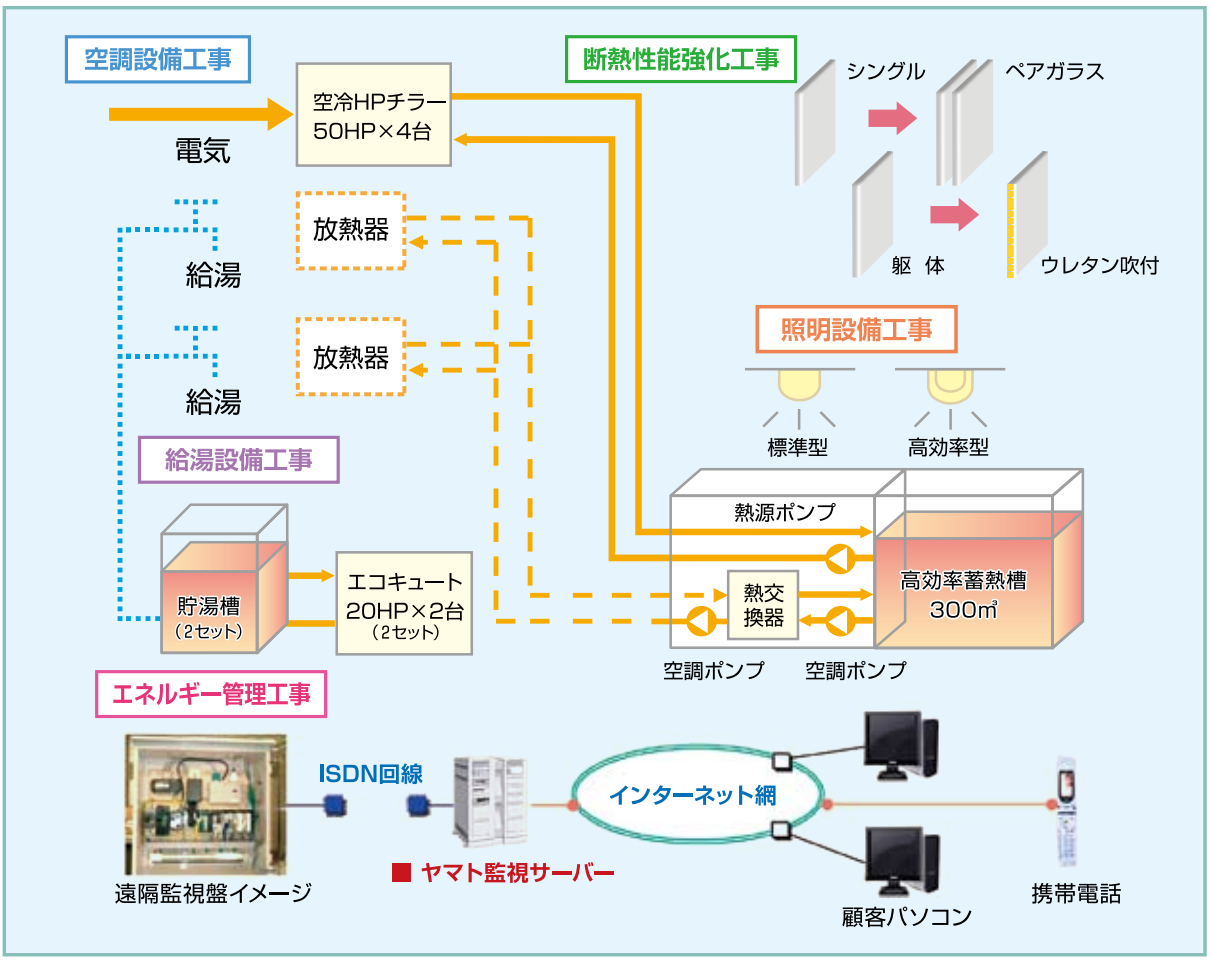
- 熱源機の一括電力計測
- ポンプの一括電力計測
- 各熱源機往還温度及び流量
- 熱交換器往還温度及び流量
- 蓄熱槽内温度
- 室内/外気温度
- インバーター出力値
- 各動力/電灯制御盤電力
- 各機器、発停/状態/故障
- 貯湯槽内温度、貯湯量
- 給水量、給水温度

給湯設備更新

システム ボイラー
→蓄熱給湯システムへの更新
仕様 エコキュート40kW×2台×2
蓄熱槽16㎥×2

照明設備更新

照明設備更新
システム 高効率照明器具への更新
仕様 LED照明 等



社会福祉法人 長岡三古老人福祉会 コンパクトシティ 桜ガーデンプレイス福住 様

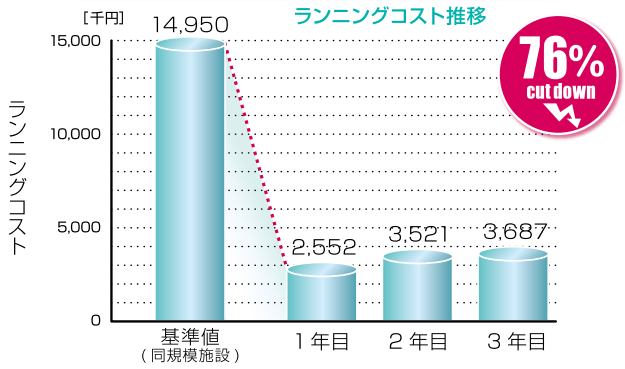
◎大温度差蓄熱空調システム 納入効果検証

竣工:平成21年6月

構 造：RC造 地上6階
建築 面積 ：1,520㎡
延べ床面積：6,220㎡

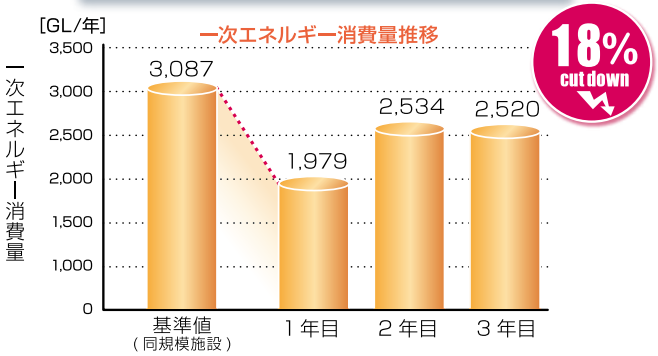
空調熱源

ランニングコスト



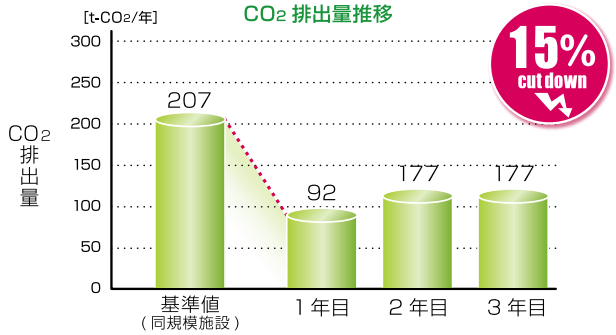
蓄熱システム導入により、およそ **76%削減**することができました。

一次エネルギー消費量



蓄熱システム導入により、およそ **18%削減**することができました。

CO_2 排出量



蓄熱システム導入により、およそ **15%削減**することができました。

工事概要

工事名称	(仮称)地域密着型複合施設福住新築工事
施工場所	新潟県長岡市福住
施主	社会福祉法人　長岡三古老人福祉会
設計監理	(株)細貝建築事務所
発注者	越後交通工業(株)
工期	平成20年8月20日～平成21年6月15日
用途	老人福祉施設及び託児所
建築面積	1,520㎡
延べ床面積	6,220㎡
構造	RC造　地上6階

システム概要

空調熱源	高効率大温度差蓄熱空調システム
	空冷ヒートポンプチラー　80馬力相当×2基
蓄熱槽	水蓄熱槽　340㎥
空調機	ファンコイルユニット
	省エネルギー機器(大温度差型)
空調ポンプ	インバーター変流量制御
	(搬送動力を削減)
床暖房	温水パイプ方式
遠隔監視	省エネチューニング
給湯設備	蓄熱式ヒートポンプ給湯器
	(業務用エコキュート)20馬力×3基
貯湯槽	16㎥

和's YAMATO（わずやまと） 冬号 2012（第13号）

『和's YAMATO（わずやまと）』の由来
ヤマトの漢字の「和」、Water & Air の頭文字を合わせて「WA」、
「S」はスタート。ヤマトが発信するメッセージです。

株式会社ヤマトPR誌/和's YAMATO 2012 冬号／2012年12月発行
発行：株式会社ヤマト（総務部）群馬県前橋市古市町118
TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896
URL: www.yamato-se.co.jp/

雄山神社本社 阿弥陀如来と不動明王を祀っている。

名水探訪 名水百選

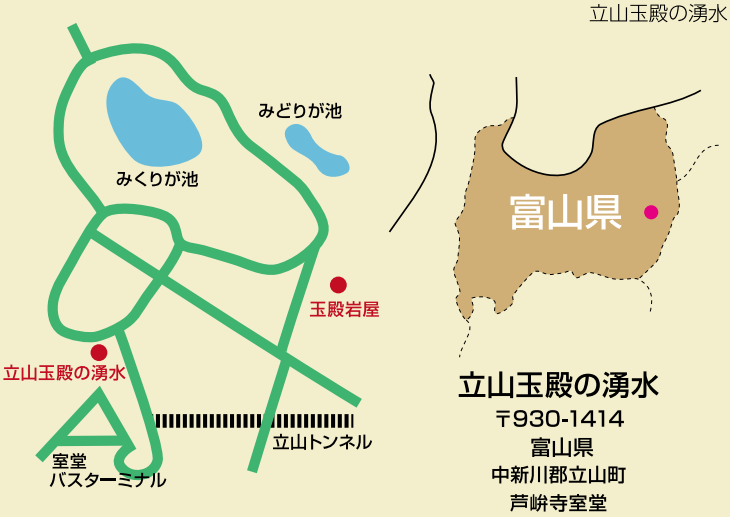
立山玉殿の湧水（たてやま たまどの）

中部山岳国立公園立山連峰の主峰・雄山（標高3,004m）の直下から湧出している地下水です。この地下水は、立山開山の故事に出てくる「玉殿の岩屋」がある室堂一帯に潤いをもたらし、昭和43年の立山トンネル開通により、その一部がこの地で湧出したものです。水量は、毎分約15㎥に達し、水温は常時2～5℃と冷たく、霊峰立山の水として多くの登山者や観光客に愛飲されています。
昭和63年には環境庁の「名水百選」に選定されました。

立山玉殿の湧水

立山での最大の火山湖であるみくりが池

雄山山頂からの眺め



立山玉殿の湧水
〒930-1414
富山県
中新川郡立山町
芦峅寺室堂

玉殿の岩屋

玉殿の湧水からみどりが池方向へ歩くと、立山開山伝説が残る玉殿の岩屋に行けます。熊と白鷹によって玉殿の岩屋に導かれた佐伯有頼（さえきのありより）が、この岩屋で熊から変身した阿弥陀如来と、そこに現れた慈朝上人に立山を開くように告げられたそうです。江戸時代までは、修行者の聖地であり、のちには登拝者の宿泊所にもなっていました。

株式会社ヤマト
群馬県前橋市古市町118 〒371-0844
TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896
支店／東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北　営業所／軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、湘南、東松山、新潟、栃木市、長野、渋川、川口、多摩、滋賀
附属施設／大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、教育センター　ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/